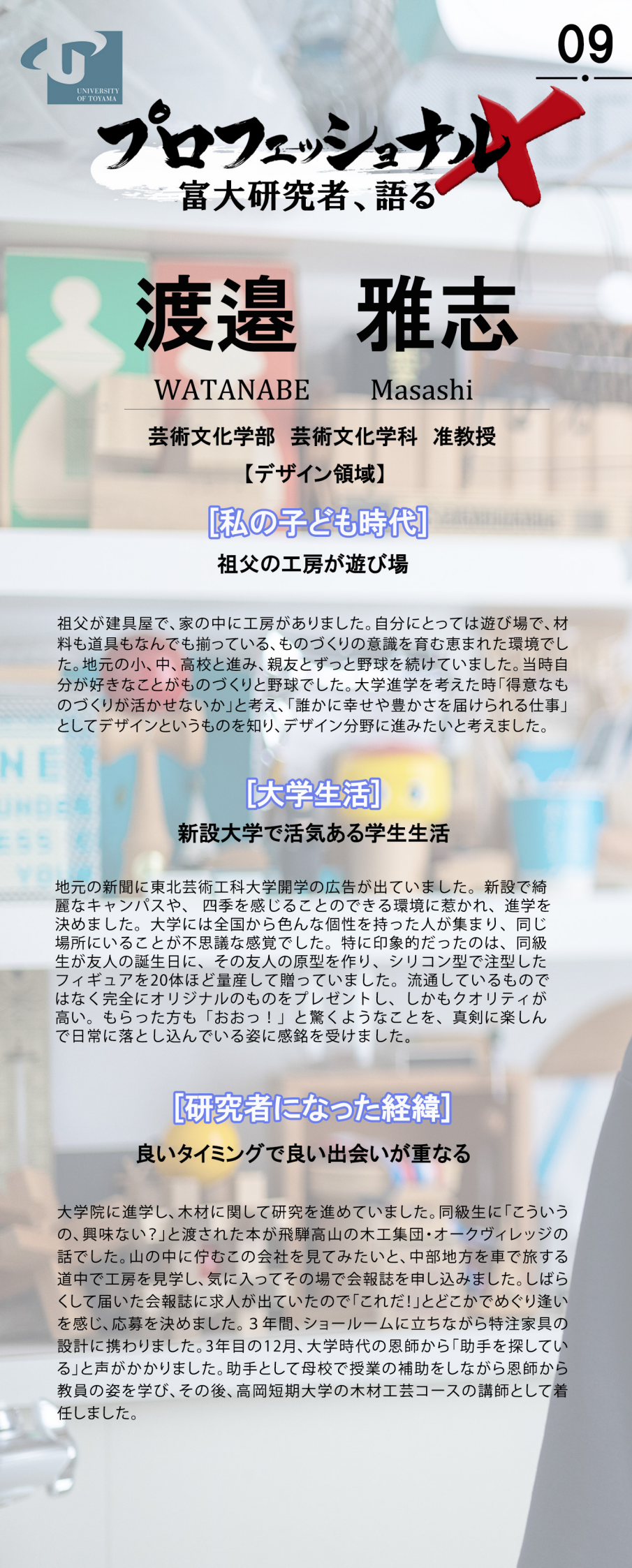




プロフェッショナルX

富大研究者、語る

渡邊 雅志

WATANABE Masashi

芸術文化学部 芸術文化学科 准教授

【デザイン領域】

【私の子ども時代】

祖父の工房が遊び場

祖父が建具屋で、家の中に工房がありました。自分にとっては遊び場で、材料も道具もなんでも揃っている、ものづくりの意識を育む恵まれた環境でした。地元の小、中、高校と進み、親友とずっと野球を続けていました。当時自分が好きなことがものづくりと野球でした。大学進学を考えた時「得意なものづくりが活かせないか」と考え、「誰かに幸せや豊かさを届けられる仕事」としてデザインというものを知り、デザイン分野に進みたいと考えました。

【大学生生活】

新設大学で活気ある学生生活

地元の新聞に東北芸術工科大学開学の広告が出ていました。新設で綺麗なキャンパスや、四季を感じることでできる環境に惹かれ、進学を決めました。大学には全国から色んな個性を持った人が集まり、同じ場所にいることが不思議な感覚でした。特に印象的だったのは、同級生が友人の誕生日に、その友人の原型を作り、シリコン型で注型したフィギュアを20体ほど量産して贈っていました。流通しているものではなく完全にオリジナルのものをプレゼントし、しかもクオリティが高い。もらった方も「おおっ！」と驚くようなことを、真剣に楽しんで日常に落とし込んでいる姿に感銘を受けました。

【研究者になった経緯】

良いタイミングで良い出会いが重なる

大学院に進学し、木材に関して研究を進めていました。同級生に「このうちの、興味ない？」と渡された本が飛騨高山の木工集団・オークヴィレッジの話でした。山の中に佇むこの会社を見てみたいと、中部地方を車で旅する道中で工房を見学し、気に入ってその場で会報誌を申し込みました。しばらくして届いた会報誌に求人が出ていたので「これだ!」とどこかでめぐり逢いを感じ、応募を決めました。3年間、ショールームに立ちながら特注家具の設計に携わりました。3年目の12月、大学時代の恩師から「助手を探している」と声がかかりました。助手として母校で授業の補助をしながら恩師から教員の姿を学び、その後、高岡短期大学の木材工芸コースの講師として着任しました。



高校生へのメッセージ

私の研究室では「モノ」のデザインだけでなく、「コト」のデザインに特に重点をおいてプロジェクトを進めています。「コト」とは、人の心を動かすような出来事をデザインすることです。様々なプロジェクトには研究室の学生も参加します。一緒に考え、アイデアが生まれる瞬間も共有し、プロジェクトが達成されるその瞬間まで、学生一人ひとりに体験してってもらいたいです。

ラボ 潜入



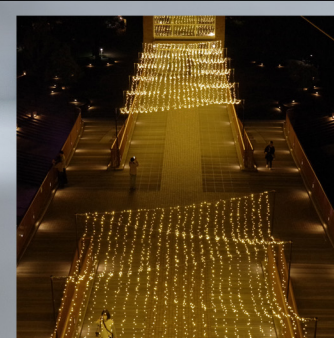
【Meets GEIBUN】三井不動産と富山大学の共同研究。三井アウトレットパーク北陸小矢部にオープンしたアート&コミュニティスペース。3ヶ月ごとに芸文のユニークな展覧会を開催している。



【富山マラソンタオル】富山県との受託研究。フルマラソン完走者とジョギングの部参加者に贈られるタオルをデザイン。タオルをつなげると立山連邦の稜線が見えてくる。



【アートのちから】富山県教育委員会からの受託事業。県内の高校1〜2年生と芸文生との共同学習の取り組み。最後はグランドプラザ（富山市）で1日限りのアートワークショップを開催。



【環水公園スイートイルミネーション】富山県と北日本新聞社との受託事業。県を代表する富岩運河環水公園の夜を彩るイルミネーションデザイン。コンセプトは「富山湾に潜って海面を見上げて泳ごう!」

Profile

1973年、新潟県出身。新潟県立中条高等学校出身。
東北芸術工科大学 デザイン工学部 生産デザイン学科 卒業。
東北芸術工科大学大学院 芸術工学研究科 デザイン工学専攻修士課程修了。
2004年より高岡短期大学（現・富山大学芸術文化学部）着任。
富山には四季があり、自然と一体となって過ごす日々が好きを感じている。趣味の野球で2015年富山県代表として全国優勝（壮年）。ソフトボールは2025年富山県代表（壮年・実年）。

現在の研究テーマ：創造性を育むデザインの研究
キーワード：Meets GEIBUN、富山マラソンタオル、環水公園スイートイルミネーション
アートのちから、GEIBUNオープンエアミュージアムin環水公園
担当講義：感性をはぐくむ、デザイン入門、デザインプロジェクトB（クラフトデザイン）など
所属学会：日本デザイン学会、日本インテリア学会（北陸支部長）